

事例 タイトル	地震災害と豪雨災害に関する評価指標(危険度判定結果)を使って防災都市づくりの課題を抽出し、広域レベル、地域レベルの施策の検討・体系化を行った事例			
------------	--	--	--	--

都市づくり の分類	1-1. 災害リスク情報を活用した防災都市づくりの検討に係る事例 ①都市の災害リスクの評価を踏まえた防災都市づくりの課題抽出と基本方針の整理に係る事例 災害リスクの評価指標を活用した課題や基本方針の検討	災害種別	地震 水害	活用した 主なリスク 情報	災害危険度判定調査
--------------	---	------	----------	---------------------	-----------

事例の特徴

(地区特性)
地震や豪雨による洪水被害が想定されている都市であり、自助・共助・公助の連携による都市防災対策の推進を課題としている

(事例の特徴)
防災都市づくり計画の検討プロセスにおいて、地震災害と豪雨災害に関する危険度判定結果を掲載・公表し、基本方針では、「広域(行政)」「地域(官民連携)」「地域(住民)」のレベルで、地震災害と豪雨災害への対応に関する施策の体系化を行っている。

■地震災害のリスク評価

避難危険度

延焼危険度

・町丁目別に、地震災害と豪雨災害に関する危険度判定結果を掲載

■豪雨災害のリスク評価

土砂災害危険度

浸水災害危険度
(河川氾濫)

■「防災都市づくり計画」での施策展開の方向性

計画目標	計画テーマ	施策展開の方向性
災害に強い 都市づくり	都市基盤施設等の充実 広域レベルでのハード整備 対策(主に行政の役割)	<ul style="list-style-type: none"> ◎骨格となる緊急輸送路・避難路の確保・延焼遮断帯の確保 ◎避難場所・防災拠点等の整備・強化 ◎治水対策・治山整備等の推進
	安全に避難できる体制等の構築 地域レベルでの対策 (官民等の連携・協働)	<ul style="list-style-type: none"> ◎官民協働による避難経路の確保 ◎防災連絡体制の強化 ◎正確かつ迅速な情報提供
	防災意識の高揚 個人・地域レベルでの対策 (主に住民の役割)	<ul style="list-style-type: none"> ◎自助力・共助力の向上

・「広域」「地域」「個人・地域」のレベルで、地震災害と豪雨災害への対応に関する施策を体系化

取組地域	広島県府中町
------	--------

図版出典	府中町防災都市づくり計画(概要版)(平成23年3月:府中町) http://www2.town.fuchu.hiroshima.jp/www/contents/1311730720078/index.html
------	---

事例 タイトル	市民とのまちあるきやアンケート調査等を通じて地区の防災上の課題を抽出し、まちづくり計画案を取りまとめた事例
------------	---

都市づくり の分類	1-1. 災害リスク情報を活用した防災都市づくりの検討に係る事例 ①都市の災害リスクの評価を踏まえた防災都市づくりの課題抽出と基本方針の整理に係る事例 まちあるきによるリスク評価からの課題や基本方針の検討	災害種別	地震	活用した 主なリスク 情報	まちあるき調査結果
--------------	--	------	----	---------------------	-----------

事例の特徴
住宅戸数密度や倒壊危険条件等の基準から選定された23地域の密集市街地において、住民による協議会等を組織し、勉強会やまちあるき等により地域の防災上の課題を抽出し、地域独自の「防災まちづくり計画」を作成している。

■まちあるき等から整理した地区の現状と課題

(1) 防災上の課題

- ①災害時の道路利用に不安がある
- ②災害時に対応した防災広場や公園などの整備が必要
- ③建物の安全性に不安がある
- ④消防設備等の利用に不安がある
- ⑤地域活動をより活発にすべき

(2) 安全上の課題

- ①防犯上の課題がある
- ②自動車交通の危険な箇所がある
- ③歩行者・自転車の通行に不安がある

(3) その他の課題

- ①生活マナーの悪い人がいる
- ②伝統ある街並みづくりが必要である
- ③守るべき貴重なみどりがあ

まちあるきや市民アンケート等を通じて、地区の課題を抽出



狭い道路の例



寺前町公園の
防火水槽

↓

■まちづくりの将来像・基本方針

- 災害に強く、安全で安心なまちをつくる
- 地域で支えあう、住みやすいまちをつくる
- 歴史と伝統を活かした、緑豊かで美しいまちをつくる

「防災まちづくり計画」の基本方針において、災害に強いまちづくりを明記

↓

■まちづくり計画図

計画	凡例	取組み内容
整備の必要な道路		・災害時の避難や緊急車両の通行が可能となるよう、沿道の土地・建物所有者等の協力により道路の拡幅を進めていく。
①狭い道路 整備促進路線		※狭い道路整備促進路線・幅員4m未満の道路のうち、特に整備の促進を図る必要があると市長が指定したもの。
②その他		
特に改善の必要な道路		・地域にとって特に重要な道路として改善を進める。
交差点の改善		・安全でスムーズな交通を確保するため、土地・建物所有者等の協力を得て、交差点の改善を進める。
行き止まりの解消を図る区域*		・土地・建物所有者等の協力を得ながら、重点的に行き止まりの解消を図る。
防災広場や公園の整備を図る区域*		・重点的に防災広場や公園の整備を図る。
防火水槽の整備を図る区域*		・重点的に防火水槽の整備を図る。

※図上に示す区域は大まかな範囲を示したものであり、厳密な境界を示したものではありません。



「まちづくり計画図」として、道路拡幅や交差点改善、広場整備等の必要箇所を地図上に表記

取組地域	神奈川県横浜市
図版出典	寺前東町・寺前西町・金沢町 防災まちづくり計画(平成22年9月:寺前東町・寺前西町・金沢町まちづくり協議会) http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/chikimachi/katsuyou/pl-ninteibo.html

事例 タイトル	海岸保全施設の有無による2段階の津波シミュレーションにより、復興まちづくりや避難の検討を行った事例			
------------	---	--	--	--

都市づくり の分類	1-1. 災害リスク情報を活用した防災都市づくりの検討に係る事例 ①都市の災害リスクの評価を踏まえた防災都市づくりの課題抽出と基本方針の整理に係る事例 津波シミュレーションを活用した課題や基本方針の検討	災害種別	津波	活用した 主なリスク 情報	津波シミュレーション
--------------	---	------	----	---------------------	------------

事例の特徴 復興まちづくり計画の検討プロセスにおいて、海岸保全施設の有無による2段階の津波シミュレーションを行い、復興まちづくりと避難計画との検討を行っている。

■津波シミュレーション
A:復興まちづくりを検討する前提となるシミュレーション **B:避難を考えるためのシミュレーション**

●津波シミュレーションの条件

- 県が決定した防潮堤(T.P.+10.4m)が整備されている
- 東日本大震災が発生した当時の潮位(T.P.-0.46m)、津波高
- 東日本大震災による地盤が沈下した状態での地盤高(更なる地盤沈下は考慮しない)

●津波シミュレーションの条件

- 防潮堤等の海岸保全施設がない
- 期望平均満潮位(宮古 TP+0.69m)
- 東日本大震災が発生した当時の津波高
- 東日本大震災による地盤沈下と同程度の沈下を考慮した地盤

地区復興まちづくりの目標

- ・活力と賑わいのあるまち
- ・若者や女性が参加できるまち

- ・ひとにやさしいまち
- ・防災を強化し安全・安心に暮らせるまち

地区復興まちづくり計画図

復興まちづくりの目標で、市街地の防災性強化を明記

土地利用や施設配置の方針、導入事業や整備イメージを「まちづくり計画図」として作成

● 国道・県道

← 市道(避難道路等)

— 鉄道

→ 歩行者用避難路等

→ 歩行者・自転車道

■ 避難所、避難場所

■ 津波避難ビル・タワー等

取組地域 岩手県宮古市

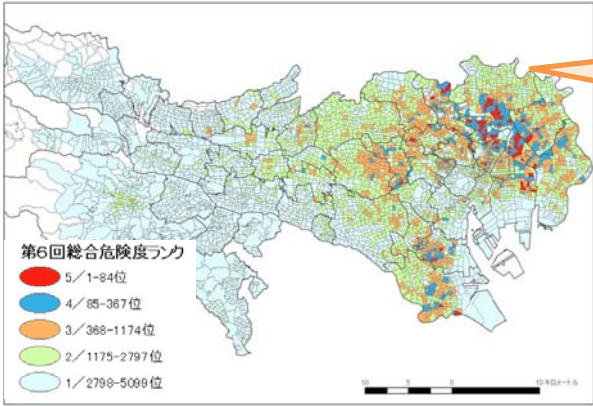
図版出典 【上左図、下図】中心市街地地区復興まちづくり計画(平成24年2月:中心市街地地区復興まちづくり検討会)
<http://www.city.miyako.iwate.jp/cb/hpc/Article-1566-8246.html>
【上右図】中心市街地地区復興まちづくり計画(素案)(平成24年2月:中心市街地地区復興まちづくり検討会)
<http://www.city.miyako.iwate.jp/cb/hpc/Article-1566-7750.html>

事例 タイトル	地域危険度測定調査を定期的を実施し、防災都市づくり推進計画の進捗管理を行う事例
------------	---

都市づくり の分類	1-1. 災害リスク情報を活用した防災都市づくりの検討に係る事例 ②防災都市づくりの施策に係る進捗管理を行う事例 地域危険度測定調査を活用した進捗管理	災害種別	地震	活用した 主なリスク 情報	災害危険度判定調査 (地域危険度測定調査)
--------------	---	------	----	---------------------	--------------------------

事例の特徴 地域危険度測定調査を定期的を実施し、調査結果を町丁目単位の地域危険度として公表している。防災都市づくり推進計画の整備プログラムの進捗管理を実施し、あわせて都内各自治体における防災都市づくりを促進している。


■地域危険度測定調査(総合危険度)




町丁目ごとに、地震の揺れによる「建物倒壊の危険性」「延焼の危険性」「建物倒壊や延焼の危険性(総合危険度)」を測定・公表

■防災都市づくり推進計画

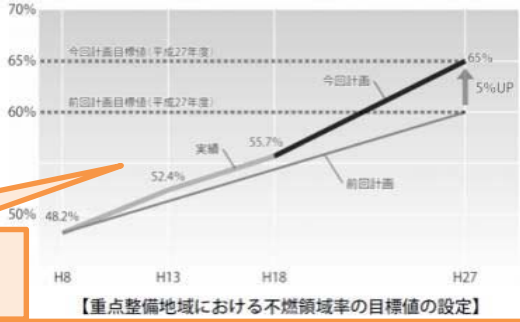
「防災都市づくり計画」では、「地域危険度」が高く、老朽木造建築物が密集する等の地域を「整備地域」「重点整備地域」に指定



重点整備地域での整備計画の策定(街路事業、木密事業、地区計画等)



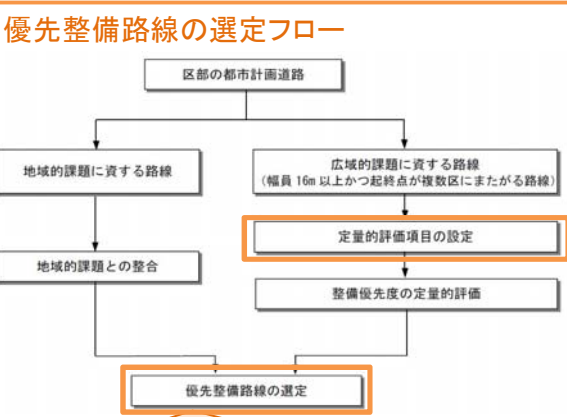
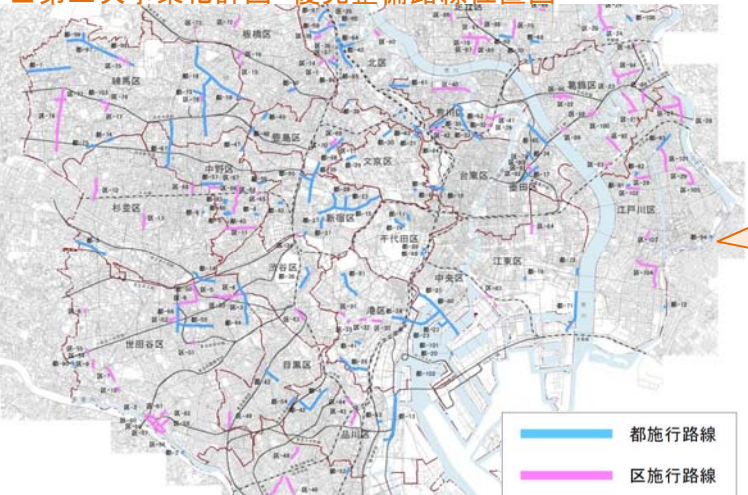
不燃領域率等により、「防災都市づくり推進計画」の進捗管理を実施



【重点整備地域における不燃領域率の目標値の設定】

取組地域	東京都
------	-----

図版出典	防災都市づくり推進計画(平成22年1月:東京都) http://www.toshiseibi.metro.tokyo.jp/bosai/bosai4.htm
------	---

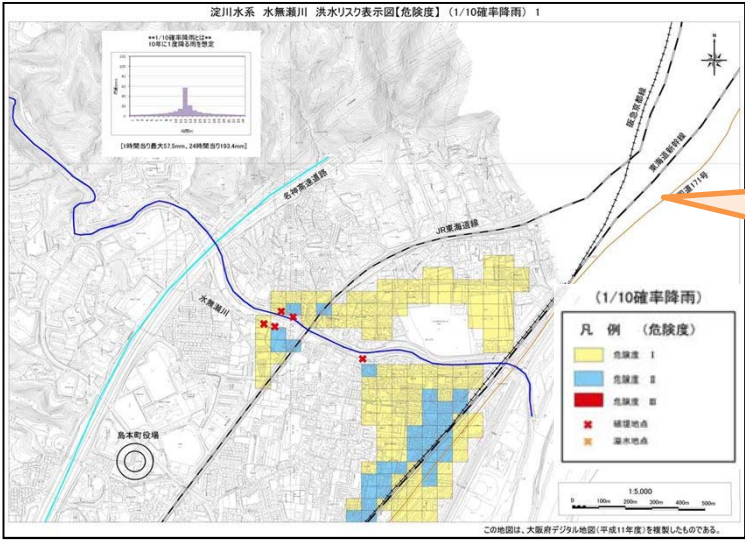
事例 タイトル	延焼遮断帯の形成や木造密集市街地の防災性向上等の観点から、都市計画道路の優先整備路線を選定し、事業の重点化を図る事例																										
都市づくり の分類	1-1. 災害リスク情報を活用した防災都市づくりの検討に係る事例 ②防災都市づくりの施策に係る進捗管理を行う事例 地域危険度測定調査を活用した進捗管理	災害種別	地震	活用した 主なリスク 情報	災害危険度判定調査 (地域危険度測定調査)																						
事例の特徴	都市計画道路の優先整備路線の選定のあたり、「防災骨格軸」「延焼遮断帯」の形成や木造密集市街地の防災性向上などの「防災性の向上」の観点から、路線の選定と事業の重点化を図っている。																										
事例内容	<p>■優先整備路線の選定</p> <p>優先整備路線の選定フロー</p>  <p>定量的評価の基本的考え方</p> <table border="1" data-bbox="885 739 1476 1288"> <thead> <tr> <th>都市問題</th> <th>解決に資する路線を抽出するための評価項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【活力】</td> <td></td> </tr> <tr> <td>経済活動の高コスト構造化</td> <td rowspan="2">自動車交通の円滑化 ・交通混雑の緩和 ・渋滞ポイントの解消 ・走行性の向上</td> </tr> <tr> <td>国際競争力の低下</td> </tr> <tr> <td>【安全】</td> <td></td> </tr> <tr> <td>深刻な被害が予想される木造密集地域の存在</td> <td rowspan="3">防災性の向上を評価項目に設定 防災性の向上 ・骨格防災軸の形成 ・主要延焼遮断帯の形成 ・木造密集地域における防災性向上</td> </tr> <tr> <td>震災時における救助・救急機能の確保</td> </tr> <tr> <td>遠距離避難地域の存在</td> </tr> <tr> <td>【環境】</td> <td></td> </tr> <tr> <td>自動車による大気環境負荷</td> <td rowspan="2">物流を支える道路ネットワークの形成</td> </tr> <tr> <td>特定箇所への交通集中による沿道環境負荷の増大</td> </tr> <tr> <td>【し】</td> <td></td> </tr> <tr> <td>バス交通の不定時性</td> <td rowspan="2">まちづくりの支援</td> </tr> <tr> <td>市空間の不足による地域の安全・快適性の低下</td> </tr> </tbody> </table> <p>「防災機能」を含めた都市計画道路の機能に着目し、今後12年間(平成16年度～27年度)に優先的に整備すべき路線「優先整備路線」の選定フローを整理</p> <p>■第三次事業化計画 優先整備路線位置図</p>  <p>広域ネットワークによる交通機能や防災機能(防災骨格軸の形成や延焼遮断帯の形成等)、地域内の交通機能、木造密集地域における防災性の向上等を考慮し、優先的に整備すべき路線を選定</p>				都市問題	解決に資する路線を抽出するための評価項目	【活力】		経済活動の高コスト構造化	自動車交通の円滑化 ・交通混雑の緩和 ・渋滞ポイントの解消 ・走行性の向上	国際競争力の低下	【安全】		深刻な被害が予想される木造密集地域の存在	防災性の向上を評価項目に設定 防災性の向上 ・骨格防災軸の形成 ・主要延焼遮断帯の形成 ・木造密集地域における防災性向上	震災時における救助・救急機能の確保	遠距離避難地域の存在	【環境】		自動車による大気環境負荷	物流を支える道路ネットワークの形成	特定箇所への交通集中による沿道環境負荷の増大	【し】		バス交通の不定時性	まちづくりの支援	市空間の不足による地域の安全・快適性の低下
都市問題	解決に資する路線を抽出するための評価項目																										
【活力】																											
経済活動の高コスト構造化	自動車交通の円滑化 ・交通混雑の緩和 ・渋滞ポイントの解消 ・走行性の向上																										
国際競争力の低下																											
【安全】																											
深刻な被害が予想される木造密集地域の存在	防災性の向上を評価項目に設定 防災性の向上 ・骨格防災軸の形成 ・主要延焼遮断帯の形成 ・木造密集地域における防災性向上																										
震災時における救助・救急機能の確保																											
遠距離避難地域の存在																											
【環境】																											
自動車による大気環境負荷	物流を支える道路ネットワークの形成																										
特定箇所への交通集中による沿道環境負荷の増大																											
【し】																											
バス交通の不定時性	まちづくりの支援																										
市空間の不足による地域の安全・快適性の低下																											
取組地域	東京都																										
図版出典	区部における都市計画道路の整備方針(平成16年3月:東京都・特別区) http://www.toshiseibi.metro.tokyo.jp/seibihosin/zenbun-mokuji.html																										

事例 タイトル	洪水リスク表示図を活用し、浸水対策の周知と進行管理を行う事例
------------	--------------------------------

都市づくり の分類	1-1. 災害リスク情報を活用した防災都市づくりの検討に係る事例 ②防災都市づくりの施策に係る進捗管理を行う事例 洪水リスク表示図を活用した進捗管理	災害種別	水害	活用した 主なリスク 情報	洪水リスク表示図(洪水シミュレーションをもとに作成)
--------------	--	------	----	---------------------	----------------------------

事例の特徴 様々な降雨で想定される河川氾濫・浸水の危険性と、治水対策の実施状況を反映した「洪水リスク表示図」を作成・公表することを通じて、事業効果の評価や進捗管理を行っている。

■洪水リスク表示図(地先の危険度評価)



様々な降雨により想定される河川の氾濫や浸水の可能性を府民にわかりやすく提示

様々な降雨の想定や、治水対策の進捗等に応じ、洪水リスク表示図を更新
⇒「洪水リスク表示図」を、事業効果の評価や進捗管理に活用

■今後の治水対策の進め方

優先度評価フロー

<Step1>
現況の地先の危険度により、各河川をランクA、B、Cに分類。

<Step2>
各河川で治水対策が特に必要な区間、護岸の老朽化や河床低下等に対する治水機能の保全対策が必要な区間を抽出。
※治水機能の保全対策が必要な河川の区間は1ランクアップ。

<Step3>
被害発生危険値の大きさにより、各ランク別に優先度を評価。
○被害発生危険値とは氾濫解析結果による想定被害額の期待値であり、以下の手法により算定する。

$$【被害発生危険値】 = \sum \left(\begin{array}{l} \text{降雨発生確率: } 1/10 \times (1/10 \text{の想定被害額}) \\ \text{降雨発生確率: } 1/30 \times (1/30 \text{の想定被害額}) \\ \text{降雨発生確率: } 1/100 \times (1/100 \text{の想定被害額}) \\ \text{降雨発生確率: } 1/200 \times (1/200 \text{の想定被害額}) \end{array} \right)$$

河川(治水対策が必要な区間)の優先順位付け

治水施設の整備規模の決定フロー

現況(50mm/時以下能力の確認) → 50mm/時以下能力なし → 50mm/時対策の実施を想定 → 50mm/時対策完成後の時間雨量65mm/時、80mm/時の降雨による危険度Ⅱ、Ⅲの有無を確認

危険度Ⅱ、Ⅲが発生しない → 当面の治水目標を時間雨量50mm/時への対応とする

危険度Ⅱ、Ⅲが発生する → 事業効率等により選択 → 当面の治水目標を時間雨量65mm/時への対応とする / 当面の治水目標を時間雨量80mm/時への対応とする

地先の危険度を踏まえ、治水施設の整備規模設定や河川(治水対策が必要な区間)の優先順位付けを実施

取組地域 大阪府

図版出典 【上図】水無瀬川洪水リスク表示図<1/10年確率降雨・危険度編>(平成24年2月:大阪府)
<http://www.pref.osaka.jp/kasenkankyo/boujyo/risukuminase.html>
【下図】今後の治水対策の進め方(報告書案)(平成22年5月:大阪府)
<http://www.pref.osaka.jp/kasenseibi/keikaku/kentou-bukai4.html>

事例 タイトル	優先整備公園の選定において、公園整備による防災性の向上(震災対策や都市型水害等の軽減への寄与)の視点を取り入れた事例
------------	--

都市づくり の分類	2-1. 市内都市整備部局の既存事業 ②市街地整備・まちづくり担当事業の活用事例 市街地整備	災害種別	地震 水害	活用した 主なリスク 情報	地域危険度判定調査 土地利用現況(防災拠点 施設の配置等) 浸水実績(内水)
--------------	--	------	----------	---------------------	---

事例の特徴
今後10年間に於いて優先的に整備を進める公園・緑地を定める「都市計画公園・緑地の整備方針」において、震災対策、都市型水害等の軽減の両面から、公園等整備による都市の防災性向上を評価し、「重点化を図るべき公園・緑地」の選定と「優先整備区域」の設定を行っている。

■選定の方針 (☒は次回以降の事業化計画更新に伴うステップアップ)

未供用区域のある都市計画公園・緑地 → 公園・緑地の機能・役割に基づく評価により選定 → 重点化を図るべき公園・緑地 → 整備の重要性と整備効果の高さに基づく評価により設定 → 重点公園・緑地 (優先整備区域) / 重点公園・緑地以外の公園・緑地 / 今後も整備が必要な公園・緑地

事例内容

「防災」に係る重点化の視点
 <震災対策>
 ○避難場所の確保
 ○避難路の確保、延焼の防止
 ○防災拠点の整備
 ○その他震災対策への寄与
 <都市型水害等の軽減>
 ○東京都豪雨対策基本方針に基づく対策促進流域
 ○洪水の際に浸水のおそれのある地域
 ○より有効に都市型水害等の軽減に寄与することが可能な河川沿いの公園・緑地

「区域の重要性」に係る「防災」の評価視点
 ○避難場所等としての確保、区域拡大が必要な区域
 ○大規模救出救助活動拠点の指定公園等において、救助活動や外部からのアクセス確保から必要な区域
 ○延焼遮断帯や避難路として効果の高い帯状の区域
 ○集中豪雨の際に浸水の危険が予想される区域
 ○高規格堤防整備事業などの水害予防対策との連携が期待できる区域
 ○土砂崩れなどの災害防止にも寄与する区域

■今回設定した優先整備区域による緑の保全・創出のイメージ

優先整備区域を有する公園・緑地
 ※円の大きさは優先整備区域の面積により段階的に表示
 ● 避難場所等となる公園・緑地
 ● うち、大規模救出救助活動拠点が指定されている公園・緑地
 ● その他の公園・緑地
 ■ 木造住宅密集地域
 --- 崖線
 --- 河川
 --- 主な水と緑の骨格 (「水と緑の回廊の形成」(『2020年の東京』への実行プログラム 2012) をベースに作成)

取組地域	東京都
------	-----

図版出典	都市計画公園・緑地の整備方針(改定)(平成23年12月:東京都・特別区・市町) http://www.toshiseibi.metro.tokyo.jp/seisaku/kaitei_koen_ryokuti/index.html
------	--

事例 タイトル	上下水道局、建設局、産業観光局、消防局が連携し、雨に強いまちづくり推進計画を策定し、浸水被害の最小化に向けた施策連携に取り組む事例
------------	---

都市づくり の分類	1-1. 災害リスク情報を活用した防災都市づくりの検討に係る事例 ③防災都市づくりの施策に係る検討体制に係る事例 都市部局による庁内連携体制の構築	災害種別	水害	活用した 主なリスク 情報	浸水実績(内水)
--------------	---	------	----	---------------------	----------

事例の特徴 流域全体の治水安全度を効率的・効果的に高めていくことを目的に、上下水道局、建設局、産業観光局、消防局の4局が検討会を実施し、各局の事業・施策を災害発生過程の各場面ごとに関連付けて実施・展開する方向性を示している。

■「雨に強いまちづくり推進計画」における検討体制

■災害の発生過程に基づいた対応課題の設定と検討フロー

「浸水被害発生箇所の解消」に係る検討フロー

融合の観点 市民目線

■各局事業・施策の関連付けのイメージ

各施設についての検討を通じ、事業実施に向けた局面(事業間)連携・調整を実施

取組地域	京都府京都市
------	--------

図版出典	雨に強いまちづくり推進計画(平成22年4月:京都市) http://www.city.kyoto.lg.jp/suido/page/0000087413.html
------	---

事例 タイトル	都市部局及び防災部局(市民の避難方法等に関する部署)による会議を組織し、津波対策の各種検討を行う事例
------------	--

都市づくり の分類	1-1. 災害リスク情報を活用した防災都市づくりの検討に係る事例 ③防災都市づくりの施策に係る検討体制に係る事例 防災部局の組織する体制への都市部局の参画	災害種別	津波	活用した 主なリスク 情報	津波浸水予測図
--------------	---	------	----	---------------------	---------

事例の特徴 津波による人的被害を最小限にすることを目的として、都市計画及び防災(市民の避難方法等に関する部署)による津波対策プロジェクト会議を設置し、ソフトとハードの対策を体系的に整理し、その展開を図っている。

■津波対策プロジェクト会議の構成

	部署	主な担当業務内容	
		施設の終点検	避難方法
座長	危機管理監		
委員	危機管理課	○	○
委員	福祉総務課		○
委員	都市計画課	○	○
委員	道路課	○	○
委員	河川課	○	
委員	公共建築課	○	
委員	消防局・警防課		○
委員	教育委員会・学校施設課	○	○
委員	教育委員会・指導課	○	○
委員	西区・区振興課	○	○
委員	南区・区振興課	○	○
委員	北区・区振興課	○	○
オブザーバー	中区・区振興課	○	○
オブザーバー	東区・区振興課	○	○

…防災部局
…福祉部局
…都市・建設部局
…消防部局
…学校施設・教育部局
…地域振興部局

都市計画及び防災(市民の避難方法等に関する部署)による津波対策プロジェクト会議を設置

■暫定的な津波対策範囲の設定

調査結果より海岸から2kmの範囲において家屋の流出が多いことを踏まえ、「安政東海地震の推定津波浸水域+2km」(以下「対象地域」という。)を暫定的に津波対策を実施する地域に設定

ハードとソフトを組み合わせ、津波対策の体系を整理

■津波対策の体系化

市民の命を守ります	地域防災計画の見直し	地域防災計画(津波対策編)作成
	被害想定の見直し	津波被害想定の見直し
	津波を知らせる対策	屋外放送施設(同報無線)の整備
		緊急情報放送(FM Ilaro!)
		携帯電話メールの活用
	津波から逃げる対策	津波避難ビルの指定
		津波避難施設の整備
		市民の津波避難方法
		園児、児童・生徒の避難対策
		標識(避難所・避難所案内・標高・浸水域)の設置
		避難路の橋梁耐震
		市街化調整区域の開発許可の運用の見直し
	津波を防ぐ対策	河川堤防・水門・樋門等の整備
被災後の生活を守ります	津波から逃げた後の対策	行政機能の確保等
知ろう(啓発)	地震・津波の知識	出前講座等への参加
	避難地の把握	地域の避難地の確認
	地域特性	地域の災害要因について知る
参加しよう(呼びかけ)	防災訓練	津波避難訓練(災害図上訓練)への参加

取組地域 静岡県浜松市

図版出典 浜松市津波対策プロジェクト会議中間報告書(平成23年10月:浜松市津波対策プロジェクト会議)
<http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/lifeindex/life/disaster/tsunami/index.htm>

事例 タイトル	延焼シミュレーション情報を活用したワークショップを実施し、個人でできる防災都市づくり活動の促進を図った事例
------------	---

都市づくり の分類	1-1. 災害リスク情報を活用した防災都市づくりの検討に係る事例 ③防災都市づくりの施策に係る検討体制に係る事例 市民との連携体制の構築	災害種別	地震	活用した 主なリスク 情報	まちあるき調査結果 延焼シミュレーション
--------------	--	------	----	---------------------	-------------------------

事例の特徴	市民とともに災害に強い都市づくりを進めていくことを目的として、専門家を交えたワークショップを開催し、延焼シミュレーションやまちあるきを実施しながら各地区の課題や取組みの共有を図っている。
-------	---

防災都市づくりのモデル地区を設定
(市民と行政がともに学習しながら、災害に強い都市づくりに向けた検討を行う)

↓

■モデル地区における防災都市づくりワークショップの開催

ワークショップの内容

ガイダンス

日時：11月22日[日] 10:00-12:00
場所：松浪自治会館
★ワークショップの概要説明
★基調講演：「防災まちづくりについて考える」

1

道路閉塞・火災を人の視点から考える

日時：12月13日[日] 9:00-12:00
場所：茅ヶ崎市役所
★体験学習
★ワークショップ
★延焼シミュレーション

2

道路閉塞・火災をまちの視点から考える

日時：1月24日[日] 9:00-12:00
場所：松浪自治会館
★地域点検
★ワークショップ
宿題：「地域の防災資源や危険ポイント」を探る

3

個人・地域でできる防災都市づくりとは

日時：2月28日[日] 10:00-12:00
場所：松浪自治会館
★宿題の発表
★ワークショップ

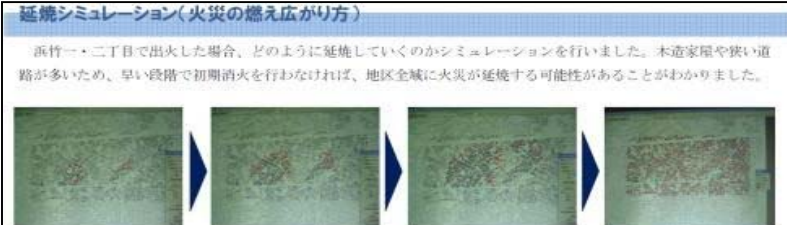
4

シンポジウム

日時：3月20日[土] 10:00-12:00
場所：小和田公民館(予定)
★開催報告(報告者：地域住民代表)
★パネルディスカッション
「個人・地域でできる防災都市づくり活動」(予定)

5


専門家による災害リスク情報の提供
(延焼シミュレーションの実施)



地域住民による災害リスク情報の提供
(地域点検(まち点検)の実施)


地域点検(まち点検)

地震による道路閉塞、火災による影響を考えながら、5班に分かれて地域点検(まち点検)を行いました。



ワークショップの内容

グループ討議では、地域点検の結果を整理しながら、個人として・地域として、地震に対して強いまちづくりのために、何ができるか話し合いました。



↓

防災都市づくりのアクションプランをはじめ、
自助・共助の取組みを促進

取組地域	神奈川県茅ヶ崎市
図版出典	松浪地区防災都市づくりNEWS VOL.1~3(平成21年12月~平成22年2月:茅ヶ崎市) http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/machidukuri/22596/015028.html